

✿ 移転について(現庁舎から安全な仮設庁舎へ)

奈良文化財研究所は2012年に創立60年の還暦を迎え、同時に本庁舎建替事業をスタートさせました。

奈文研の庁舎の歴史としては、1953年に奈良市春日野町の旧奈良県商工館(現奈良国立博物館仏教美術資料研究センター)を最初の庁舎として開所し、その後、1980年に旧県立奈良病院を改修した現在の庁舎に移転してきました。

現在進めている本庁舎建替事業は、平城宮跡内の佐伯門東側に仮設庁舎を設置することから始まり、本年12月には本庁舎と研修棟の機能を移転させ、新庁舎が完成する2016年春までの約2年間は仮設庁舎での研究活動等の業務をおこなうこととなります。

仮設庁舎は現庁舎と比較すると面積が減少しますが、病院特有の広い共有スペースを減らすこと等により研究室は現在とほぼ同じ面積が確保されています。また、研究室はもともと病室であったため、電源等の面で機能不足が多数ありましたが、仮設庁舎では研究業務を考慮した設計になっています。更に、見かけはプレハブですが安全性(耐震機能)は現庁舎以上であり、仮設庁舎の方が安全な建物といえます。

なお、庁舎移転については、奈文研ホームページ(<http://www.nabunken.go.jp>)でもご案内しております。一般の方々には、図書資料の閲覧等についてしばらくの間ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

(研究支援推進部 今西 康益)



建設中の仮設庁舎